

# 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

## 第9回メディア委員会

1 開催日時：平成31年2月13日(水) 14時00分～15時30分

2 開催場所：組織委員会虎ノ門オフィス9階TOKYO

3 出席者

メディア委員（五十音順）

日枝委員長、石川副委員長、安藤委員、石井委員、笛吹委員、北川委員、狐崎委員、草野委員、香高委員、小菅委員、小牧委員、今野委員、佐藤委員、佐野委員、神保委員、関根委員、東実委員、友岡委員、中屋委員、夏野委員、二久委員、樋口委員、檜原委員、福地委員、藤丸委員、松本委員、丸山委員、宮嶋委員、山田委員、結城委員、豊委員、渡辺委員、小林氏（平委員代理）、仙石氏（西野委員代理）、塩谷氏（前木委員代理）、並河氏（吉田委員代理）

臨時委員

諸戸氏（内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 企画・推進統括官）、根本氏（東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画推進部長）

組織委員会事務局

森会長、遠藤会長代行、武藤事務総長、坂上副事務総長、山本副事務総長、伊藤企画財務局長、小林広報局長、高谷スポークスパーソン、谷内広報担当、手島総務局長、柳館次長、小林企画制作部長

4 議事次第

### 【議題】

- (1) 2018年の主な活動報告について
- (2) 東京2020参画プログラムの現状について
- (3) アクション&レガシーファイナルレポートについて
- (4) 復興に関する取組みについて
- (5) 小・中学生ポスター募集企画の概要と表彰について

## 5 配布資料

2018年の主な活動報告について p. 2

東京2020参画プログラムの現状について p. 21

アクション&レガシーファイナルレポートについて p. 26

復興に関する取組みについて p. 28

小・中学生ポスター募集企画の概要と表彰について p. 38

## 6 議事録

○日枝委員長 お時間になりましたので、これから開かせていただきたいと思います。

皆様、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会第9回メディア委員会を開催いたします。

初めに、本日の委員会のメディアへの公開についてお知らせいたしますが、前回と同様になりますけれども、記者の方にはフルオープンとさせていただきます。

なお、ムービー・スチールの方は、会議の冒頭のみオープンとさせていただきます。

それでは、開会に当たりまして、森会長から御挨拶をお願いしたいと思います。

○森会長 皆様、御苦勞さまでございます。御多用の中、ありがとうございます。

今、日枝さんからお話がありましたように、この委員会も9回目を数えました。

各種の委員会が、組織委員会にございますが、一番伝統的に古いと申し上げていいかと思いますが、最初のスタートのときから、まずメディアの委員会を開き、いろんな、さまざまな御意見をいただきながら、それを中心に組織委員会が進めてきたということは言うまでもないことでありまして、改めて御礼を申し上げる次第であります。後ほど詳細については、またお話を申し上げます。

今年は慌ただしく、間もなく2月の半ばに入りますけれども、5月には改元もございまして、政治的にも大変忙しい日程になりました。

6月には大阪ではG20、各首脳の前が皆さんがおそろいだということになれば、大変また日本が話題の中心になるわけでありまして。

そして、いよいよ、この我々の組織委員会のテストイベントという、昔で言いますとオリンピックの予行練習みたいなものですね。これが大体六、七月ごろからずっと1年をかけて、各競技で国際大会が多く行われます。これが機運の醸成につながっていくと思います

し、多くのアスリートの気持ちを高めていくということになると思います。

同時に、9月からは、ラグビーのワールドカップが約2カ月間にわたって、東京を中心に、12の都市で開かれます。

そして、来年は東京大会の本番ということになりまして、いよいよ世界の目が、まさに日本に注がれていくということになるかと思えます。

組織委員会では、この機運をより一層高めるために、いろんなことをやってまいりましたが、その中で、今年度の小中学生からのポスター募集企画。昨年2月に全国の小学生の投票によって選ばれました東京2020マスコットをテーマに作品を募集いたしました。

今年は過去最高となります3万1,000点を超える応募の作品がございました。本日、メディア委員会の皆様にも選考に御協力いただき、本当にありがとうございます。

昨年同様に3月末の、これは日が決まっていますね。

○事務局 3月29日です。

○森会長 有明のパナソニックセンター東京で表彰式を行います。その際は、また日枝委員長に御来席を賜ればと思います。また、皆様にはぜひ足を運んでいただければと思います。

また、来年は、世界のアスリートを応援するというテーマにしたポスターの募集も予定いたしております。

特にこの委員会で、結城さんを初め、皆さんが取り上げられました復興へのテーマは、随所に、この委員会の中でも取り組んでおりますが、復興への取組としては、今度ギリシャで採火をされます聖火、これが宮城県の松島航空自衛隊の基地に到着することになりました。そして、その後、復興の火として、宮城県、岩手県、福島県に二日ずつ展示をいたしまして、そして、全国をそこから回る。東京2020オリンピック聖火リレーとしては、福島県を出発に、2020年3月26日からであります、スタートすることになると思います。

また、組織委員会では、昨年7月に福島県のナショナルトレーニングセンターの、いわゆるJヴィレッジにおきまして、東京から全理事が出席いたしまして現地で理事会を開催いたしました。

そのほか、バッハ会長が来日されました際、安倍総理を尋ね、事前に安倍さんと1回御相談があったときに、福島で何か記念の行事をしたらどうかという御提案があつて、安倍さんの提案で、いわゆる後から決まりました新しい種目の中の野球を福島で取り入れたらどうかということになりまして、これがその際に、11月、バッハ会長と安倍首相お二人でそ

ろって福島県のあづま球場を尋ねていただき、復興五輪について意見交換をされました。

バッハ会長は、野球のこと、開幕試合のことよりも、訪れた際に、災害に遭われたスポーツ選手といいましょうか、野球選手とお話をされたそうですが、そのときに、高校球児の中には、災害に遭って親とも別れたり、そういう不幸な方々もおられた。そういう高校球児が、このオリンピックがあって、野球があるから、スポーツがあるから、こうしてみんなそろって一緒に会えるんだねという話をして、非常にバッハ会長は感動的であったということで、その後、世界各地の講演でこのことを取り上げて、お話をされておられます。

次に、東京2020大会の準備状況、被災地の取組などについて、報告をいたします。

大会まであと500日あまりとなりました。今年の春ごろにはチケットの販売が開始されます。概要は既に先般発表されました。また、先ほど申し上げましたテストイベントが本格化してまいります。

さらに、これも大変御協力を皆さんからいただきました、いわゆるボランティアの募集でありまして、実に20万人を超える応募になりました。最終的には、作業が間に合わないで締め切りが済んでしまいました。多くの方に御迷惑をかけましたが、その皆さんの中から、自分たちのボランティアの名称を皆さんで選んでくださいというふうにいたしまして、その結果、「フィールド キャスト」という名前が決まりました。これも応募されたボランティアの皆さんでつくられた名称であります。

これからオリエンテーションを全国各地で開催して、日本全体でこの機運を盛り上げてまいりたいと思っています。

冒頭で取り上げてまいりましたが、ほとんど全てメディア委員会の皆様からいろいろと御発言があったり、御提言がありましたことを取りまとめて、組織委員会のほうで進めてきたことをございまして、心から御礼申し上げます。

全て申し上げていくには時間がかかりますので失礼いたしますが、今後とも国民の皆様と大会をつくり上げていくための御意見を、さらに皆様から頂戴できればと思っております。

開会の御挨拶といたします。どうもありがとうございました。

○日枝委員長 森会長、どうもありがとうございました。

それでは、私からも一言御挨拶を申し上げます。

今、お話にございましたように、早いもので来年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックです。

思い起こしますと、このメディア委員会が初めて開かれましたのは2014年9月でございます。それから4年半が経過をいたしました。その間、皆様とさまざまな議論をさせていただきましたけれども、あつという間のことでございました。

今も森会長からお話ございましたように、このメディア委員会からの提案も幾つか実って、大変御同慶の至りと考えております。

本日からオリンピックまで527日、パラリンピックまでは559日ということでございますが、これからの1年半はもうあつという間に過ぎていくのではないかと考えております。

この間、メディア委員会といたしましても、大会の成功に向けて大いに盛り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

さて、皆様方には、今年も小中学生から募集いたしましたポスター企画の選考に御協力をいただきました。誠にありがとうございます。

今回のテーマは、小学生の投票で選ばれた東京2020マスコットでございましたが、応募数は、先ほどもございましたが3万1,000点を越えまして、過去最高を記録いたしました。子どもたちを初め、大会への関心が高まっている証拠だと、大変心強く思っている次第でございます。

応募状況や皆様からの投票集計結果は、後ほど事務局から報告させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

本日も皆様から活発な御意見をいただけることを期待して、それでは議事に入ります。

本日のメディア委員会では、2018年の組織委員会活動報告や、東京2020参画プログラムの現状、被災地での取組などについて、報告させていただきます。

組織委員会といたしましては、より多くの国民の皆様に参加していただくべく取り組んでいるところでございますが、さらなる盛り上げ、人々の参画をつくり出すためにはどうすればよいか。ぜひとも、皆様の活発な御意見を頂戴したいと思います。

次に、メディア委員会の変更について、お知らせをいたします。

メディア委員会のお手元の名簿に記載のとおり、7名のメディア委員が人事異動などで変更になりました。名簿記載順に一人ずつお呼びいたしますので、呼ばれました方は大変恐縮でございますが、その場でお立ちいただければと思います。

一般社団法人共同通信社総務局企画委員、香高重美委員。

○香高委員 よろしくお願ひします。

○日枝委員長 毎日新聞東京本社運動部長、神保忠弘委員。

○神保委員 よろしく申し上げます。

○日枝委員長 株式会社フジテレビジョン・スポーツ局長、友岡新委員。

○友岡委員 よろしく申し上げます。

○日枝委員長 一般社団法人日本民間放送連盟スポーツ業務部長、二久智学委員。

○二久委員 よろしくお願いたします。

○日枝委員長 日本テレビ放送網株式会社スポーツ局長、松本達夫委員。

○松本委員 よろしく申し上げます。

○日枝委員長 東京写真記者協会事務局長、渡辺幹夫委員。

○渡辺委員 よろしくお願いたします。

○日枝委員長 また、本日は御欠席のため代理出席をいただいておりますが、読売新聞東京本社執行役員、不動産・コンプライアンス・広報・オリンピック・パラリンピック担当、前木理一郎委員。

○塩谷委員（前木委員代理） 代理の塩谷と申します。よろしく申し上げます。

○日枝委員長 以上7名の方に新たに加わっていただいております。

新委員の皆様、ぜひとも今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

また、本日は臨時委員として2名の方をお迎えしておりますので、御紹介させていただきます。

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局企画・推進統括官、諸戸修二委員。

○諸戸臨時委員 諸戸でございます。よろしく申し上げます。

○日枝委員長 東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画推進部長、根本浩志委員。

○根本臨時委員 根本でございます。よろしくお願いたします。

○日枝委員長 よろしくお願いたします。

最後に、事務局についても交代がございましたので、御紹介申し上げます。

東京2020組織委員会チーフ・ファイナンシャル・オフィサー、CFO、伊藤学司氏でございます。

○伊藤CFO 伊藤でございます。よろしくお願いたします。

○日枝委員長 それでは、これから議事に入りたいと思います。

大変恐縮でございますが、もうお出になったと思いますが、ムービー・スチールの皆様は御退席をお願いしたいと思います。

それでは、組織委員会事務局からの説明をお願いしたいと思います。前回に引き続き、今回の委員会でも、全ての議題について、まず事務局から御説明させていただき、その後、委員の皆様からの御意見を頂戴したいと考えております。

では、早速でございますが、資料に沿って事務局から説明をお願いいたします。

○伊藤CF0 それでは、資料に沿いまして、メディア委員会資料という横の束の表を御覧いただきたいと思います。

こちらに基づきまして、1枚おめくりいただきますと、今日は5点、事務局から御説明をさせていただきたいと思っておりますが、最初の1、2、3について、一括してまず御説明をさせていただきたいというふうに思います。

資料の2ページは大会の概要ということで、既に皆さんに御案内のことだと思っておりますので、割愛させていただきます。

1枚おめくりいただきますと、昨年、2018年の主な活動報告ということで、9の項目を並べてございます。少し駆け足になりますが、御説明させていただきます。

まず、4ページ、競技会場でございますけれども、昨年5月までに新たに競技会場が決定されまして、全ての会場が確定いたしました。

また、青海、お台場、有明地区におきましては、アーバンクラスター構想が着実に具体化している段階でございます。

1枚おめくりいただきまして、5ページ、6ページでは、オリンピック・パラリンピックそれぞれ競技のセッションスケジュールが確定したということに記載させていただいてございます。今さらに、このセッションスケジュールよりもより細かい時間帯についての詰めをさせていただいているところでございます。

続いて、7ページを御覧いただきたいと思います。

開会式・閉会式についてでございます。

これも皆さん御案内のとおり、開会式・閉会式につきましては、下段の表でございますが、野村萬斎様をチーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクターとする全体8人の体制で、今この演出の内容ということの御検討を進めていただいているところでございまして、鋭意、これから少しずつその内容について詰めをしていただきたいというふうに思っております。

次の8ページは、聖火リレーについて記載させていただいてございます。

聖火リレーは、3月12日にギリシャ古代オリンピア市で聖火の採火式を行った後、ギリシ

ャ国内をリレーした後、3月20日に、先ほど森会長の挨拶でもお触れいただきましたけれども、宮城県航空自衛隊松島基地に到着、その後、20日から25日の間は「復興の火」ということで、宮城・岩手・福島3県で展示し、そして、3月26日、福島県をスタート地点とし、全国を回るスケジュールになっているところでございます。

また、パラリンピック聖火リレーにつきましては、開催都市東京都、パラリンピック競技開催県の埼玉、千葉、静岡において、トーチで火をつなぐリレーを実施する予定でございいますが、これ以外の各道府県におきましても、採火などを通じ、なるべく多くの道府県に参画いただけるよう、今後調整を進めてまいりたいと思っております。

そして、聖火リレーを終え、最後のゴール地点という形での聖火台でございます。

9ページを御覧いただきたいと思っております。

これまでさまざま検討した結果、聖火台につきましては式典用と競技期間用の2台の聖火台を製作することを決定させていただきました。

また、その競技期間用の聖火台につきましては、東京臨海部夢の大橋有明側のたもとのところに設置場所の候補地として、今IOCのほうにも提案させていただいているところでございます。IOCの委員の皆様からも、大変いい場所ではないかという形で御感想をいただいているところでございます。

次に10ページを御覧いただきたいと思っております。

先ほど会長、また日枝委員長からの御報告もございましたけれども、大会マスコット、これはオリンピック史上初、大会マスコットを小学生の投票で決定をするということで、全国の小学校の約8割の学校に御参画をいただきまして、右にあるア、イ、ウということで三つの中から選んでいただいたわけですが、アが大変人気を博したところでございまして、1番の票を得たということでアに決定させていただきました。

その名称は翌11ページでございますけれども、オリンピックのほうは左側「ミライトワ」、パラリンピックのほうは「ソメイティ」ということで、既に全国各地にもこのミライトワ、ソメイティがお邪魔させていただいて、オリンピック・パラリンピックの顔として活動してもらっております。

今回のポスターのテーマにもさせていただいているところでございまして、小学生や中学生を中心に、まだ1年半前の時点では、恐らく異例というふうなぐらい人気を博しているのではないかというふうに私どもは思っております。

次にボランティアでございます。12ページを御覧いただきたいと思っております。



これも事前の募集を始める段階では、本当に8万人集まるのかというような御心配の声をいただいたところでございますけれども、皆様方の御協力もございまして、大変多くの国民の皆様ボランティアに手を挙げていただいた、20万4,680人ということでございます。

次の13ページでございますように、大会のボランティアについては「フィールド キャスト」、そして、都市ボランティアについては「シティ キャスト」ということで、この名称も実際にボランティアに手を挙げた人たちに決めていただくということで、全員参加型の中でこういった名称を決めていただき、現在、マッチング作業という形で、各ボランティアの方々と面接もさせていただきながら、どのような分野でどうおつきいただくかということ調整させていただいているところでございます。

次に、チケットでございます。14ページを御覧いただきます。

14ページでございますように、チケットについては、つい先立って、具体の価格の発表をさせていただいたところでございます。既にチケット購入のために必要なTOKYO 2020 IDの登録を開始し、非常に多くの皆様に御登録いただいているところでございまして、今年の春以降、実際の一般発売のほうに向け、準備を進めてまいりたいと思っております。

次に、15ページを御覧いただければと思います。

15ページ、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」ということで、まさに国民のお力をお借りしながら、メダリストが胸につけるメダルはオリンピック・パラリンピックの象徴でございますが、こちらの金属を御協力いただくということで、この取組を進めたところでございます。これもオリンピック・パラリンピック史上初の取組でございます。

お陰様でメダル製作に必要な金属類は、ほぼ確保できる見通しが立ったため、今年度末をもって終了させていただきたいと思っておりますけれども、ここで国民の皆様から御提供いただきました金、銀、銅を、しっかりとすばらしいデザインのメダルということでこれから製作し、1年半後にメダリストの方のお手元にお届けさせていただきたいと思っております。

なお、メダルのデザインの公表については、今年の夏ごろを予定しているところでございます。

次に、機運醸成に向けた主な取組でございますけれども、さまざまな取組を、全国各地さまざまな団体に取り組んでいただいているところでございます。

東京2020参画プログラムということで、後に、少し詳細に御説明させていただきますけ

れども、本当に全国各地でいろいろな取組を進めていただいて、機運醸成に御協力をいただいているところでございます。

次に17ページを御覧いただければと思っております。

機運醸成に向けた取組のうちの一つとして、コアグラフィックスということで、会場の装飾や都市装飾、さらには競技備品やチケットなどに幅広く展開され、大会、東京大会といえはこういう色、こういうデザインだよねというような印象づけるための一つのデザインというものを、コアグラフィックスということで徹底をさせていただきました。

「かさねの色目」ということで、日本の古来に代表する色の組み合わせ、十二単などにも使われているこの形というものを示しながら、四季折々の自然の色合いを重ねて、日本の美の一つのすばらしいものということを世界に発信していきたいと思っております。

次に18ページ、機運醸成の取組みのもう一つでございますが、国連とSDGsの推進協力に関する基本合意書に、昨年11月に署名をしたところでございます。

これから掲げます17の目標に向けて、私どもは大会運営に当たって、同じ方向性を向いている取組が多数ございますので、先ほどのメダルプロジェクトもその一つでございますけれども、そうした17の目標というものを意識しながら取り組んで、広く普及していきたいというふうに思っております。

次に19ページを御覧いただきたいと思っております。

オリンピックの公式映画でございますが、こちらは国際的な賞を多数受賞されております河瀬直美様に監督に御就任いただくことを決定させていただきました。河瀬さんの視点から見たこの東京大会というもので、後世に残るすばらしい映画作品、映像をつくっていただくことを期待しているところでございます。

次に、大会経費V3でございます。

これも昨年の暮れに公表させていただきました。組織委員会、そして東京都や国も含めた全体の予算ということ。

組織委員会は6,000億円、全体経費1兆3,500億円ということで、V2と同額の中で予算編成させていただきました。私どもは収支均衡を確実に実現するんだということ、さらには、支出についてもできる限り抑制していくんだと、こういう中でさまざまな、新たに対応しなければいけない事項もあるわけでございますけれども、この収支均衡、支出抑制を図ったV3予算を策定し、これに基づいて、今年、今後は拡充をしたいと思っております。

次に、参画プログラムの状況について、御報告を申し上げます。

21ページを御覧いただきたいと思います。

こちらの表を見ていただきますと、非常に視覚的にも御理解をいただきやすいのではないかと考えてございますが、オリンピックの機運醸成のための参画プログラムということで、私どもで制度化をいたしましたけれども、一年前まではまだまだ東京を中心に、東日本を中心に多くの取組は行われているけれども、全国的にはあまり盛り上がっていない、手を挙げていただいているところが少ないという状況でございましたが、ここを御覧いただきますように、ほとんどが黄色、オレンジ、赤ということで、非常に幅広い範囲に取組が広がっているところでございます。この1月時点で、全国9万1,000件のアクションを認証したところでございまして、今後ますますこの取組を各地で進めていただけるよう、私どももさまざまな形でPRに努めていきたいと考えてございます。

具体の事例は、その次から22、23、24と出してございますが、24ページを御覧いただきたいと思います。

これは取組の一例でございますけれども、未来（あした）への道1000km縦断リレーということで、青森をスタート地点で東京までつなぐ、全長1,300kmをランニングと自転車によりつなぐということで、特に東日本大震災の記憶の風化を防ぐとともに、全国から集まった方々との交流、きずなを深めるということで取組をいただきました。

このイベント中には海外メディアの参加も募りながら、海外プレスツアーも実施し、被災地の現状について、国外へも積極的な発信を行い、復興のメッセージを世界に発信させていただいたところでございます。

次の25ページのほうも、これは復興関係でございますけれども、岩手宮城被災地スタディーツアーということで、こちらは法政大学ボランティアセンターに主催していただいたものでございますが、大学生を中心に学生が現地に足を運んで学ぶ。そして、被災地の理解を深めるという取組を、この参画プログラムの一環として取り組んでいただいたところでございます。

最後に、アクション&レガシーファイナルレポートについて、御報告を申し上げます。

私どもは、委員の皆様からのお知恵をお借りしながら、アクション&レガシーのプランを策定させていただきまして、このプランに基づいて、今さまざまな取組を進めているところでございますけれども、最終的には、この取り組んだものの実績というのを「ファイナルレポート」ということでまとめ、世の中のほうに発信していきたいというふうに考えてございます。

最後は、東京大会終了後、開催後になりますけれども、このレポートを作成するという  
ことで、その作成過程に当たりまして、また、このメディア委員会の委員の皆様から御  
意見を頂戴できればと思っております。

27ページ、次のページに全体の構成を記してございますけれども、第一章から第六章ま  
で、個別にさまざまな取組を進めていただいている。

第六章は復興・オールジャパン・世界への発信ということで、主にメディア委員の皆様  
にお力添えをいただいている部分でございますが、こうした構成の中、全体として、私ど  
もはこのオリンピックで何を残せたのか、どんな取組をしたのかということをもとめ、発  
信していきたいと思っております。

1から3までの説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○日枝委員長 御説明をありがとうございました。

それでは、引き続きまして、復興に関する取組について、事務局から御説明をお願い  
いたします。

○伊藤CF0

資料28ページを御覧いただきたいと思えます。

復興に関する取組みでございますが、先ほど申し上げましたとおり、オリンピック聖火  
につきましては、聖火の到着が、宮城県航空自衛隊松島基地に到着し、その後「復興の火」  
として、岩手、宮城、福島で計6日間展示をさせていただいた後、福島をグランドスタート  
地として全国を回るということでございます。

次のページに、改めての再掲でございますけれども、日程を転用させていただいてござ  
います。

基本的には各都道府県、東京都やベニューが複数あるところを除いては、各県2日という  
ことで全体の日程を決めてございますけれども、福島、岩手、宮城については3日間で県内  
を丁寧に回っていただきながら、復興オリンピック・パラリンピックとしての一つの取組  
というものを、県内でも進めていただければと思っております。

福島県がスタート地点でございます、南下し、その後、また沖縄まで行った後、北上  
し、岩手には6月17日～19日、宮城には6月20日～22日という形になってございます。

また、次の30ページ、先ほど森会長からの御挨拶でもお触れいただきましたけれども、  
昨年11月下旬に、福島県営あづま球場をバッハ会長、そして安倍総理に御訪問いただき  
まして、ここで災害に遭った実際の子どもたちとの意見交換を踏まえ、復興五輪の取組に

ついて、地元の知事なども入っていただきながら、意見交換をしていただいたところでございます。

次に31ページは、私ども組織委員会の理事会を昨年7月30日にJヴィレッジで行ったときのことを記載してございます。

ここには復興大臣、また、福島県知事、岩手県、宮城県の両副知事にも御参加いただきまして、福島、岩手、宮城から、どのようなことを期待されるか、また望まれるかという意見交換をさせていただいたところでございます。

32ページは復興に関する取組として、復興のモニュメントということで、現在計画中の取組でございます。

実際のオリンピック・パラリンピックの期間中に、被災地の子どもたちを中心に、オリンピック・パラリンピックの選手に対して、復興に向けてさまざまな御支援をありがとうございます、この感謝を示したような何らかのモニュメントを作成し、これを会場内、会場周辺などに置き、選手にそのメッセージを届けてもらいたい。

そして、逆に選手の皆様からは、応援ありがとうございますということで、被災地頑張れというようなことを何らかの形でメッセージのようなものを表していただいて、被災地のほうに大会後にお届けをしたいということ、現在検討しているところでございます。

次に33ページを御覧いただきたいと思っております。

被災地の食と文化を発信ということで、これは昨年9月4日から7日まででございます。メディアの皆様にも大変御協力をいただきました。国内外のメディアに対し、東京大会の準備状況などについて意見交換を行う第1回ワールド・プレス・ブリーフィングを東京で実施させていただいたところでございますが、この4日の夕食会は復興庁の御協力のもと、東京都との共催で被災3県の食材を使った料理を振る舞い、被災地の食の魅力を発信する夕食会を開催させていただいたところでございます。

また、このワールド・プレス・ブリーフィングの終了と隣接する形で、その土日に被災地メディアツアーというものを、34ページにございます、宮城、福島を御視察いただくということで、本委員会の結城委員にも御参画をいただきましたけれども、多数の海外メディアの方に御参画をいただきまして、福島、宮城の今の姿というものを、現地に行かなければなかなかわからない部分という様子を御覧いただき、世界へ発信をお願いしたところでございます。

35ページについては、その日程を記載してございます。

36ページ以降については、その復興に関するツアーの状況でございますが、ここについてはまた、御参加いただいた結城委員からも御説明をいただければと思ひまして、私からの説明は割愛させていただきます。

以上でございます。

○日枝委員長 どうもありがとうございました。

それでは、今の御報告にもございましたように、被災地メディアツアーに参加されました、そこにおられるメディア委員会の結城委員より、感想や意見などをお願いできればと思います。お願いします。

○結城委員 御指名いただきました、結城と申します。

私は個人的関心がございます、自費で現地に入ってまいりました。

ただ、本当にいろいろと目を開かされることが、冗談ではございますが、朝の6時台にバスでの集合がかり、これは海外のメディアは絶対にいらっしゃらないなと思ったら、みんなぴちっと来て、私が一番遅かったとか、昭和村という本当に福島県の奥のほうの村で、オリンピックデー・フェスタが行われて、小学生なども参加した雑巾がけリレーが行われて、何だ、オリンピックの中村真衣より小学生のほうが早いんだということがわかったとか、いろいろ目を開かされました。

ただ、私としては、問題意識は、被災地というところでスポーツの力、オリンピック・パラリンピックを開くということ、それを触媒にしながら、いわゆるツールにしながら、何らかの変化が生めないかと、それがずっと自分の中で問題意識としてございまして、その帰結ということが今行われているのかということを見聞きできたということは非常にプラスになりました。

それぞれの地域で、被災当時の状況から、どうやって人々が次第、次第に心を前に向けていったのか。その過程で、例えば何かを建設する、教育を行う、スポーツを通じて子どもたちが笑顔を取り戻していく、そういったものがどう後押しになったのかという話を一つ一つ伺いました。

私としては、スポーツは形のないものでございます。心の力といっても、心そのものが朝と夜には変わっているかもしれません。だけど、その中でも、そういう一つの糧にしながら、人々が社会をもう一回つくり上げていく、そういう流れというのは生めるのだなということに確信が持てたというのは、私自身とても大きいこととございました。

1点、これは別途感じたことではございますが、海外のメディアの皆様、被災地、特に「フ

クシマ」に入りますと、俄然、放射性物質、もしくは原発事故というところの御関心が、当然ですが高まります。

皆様、いらっしゃる方々というのは、「あの事故」という、世界に報道された事故以来、そこまで多くの情報をお持ちではないようにお見受けをします。現地にお入りになって、なぜ、ここで平和に暮らしていけるのか、いわゆる懸念はないのか。どこぞのわっば飯の老舗に行ったときは、このわっば飯に使われている素材は本当に安全なのかというようなことを逐一聞いたり、オリンピックにインタビューしたりされていらしかった。

そのときに感じましたのは、その質問が出るのは当たり前な部分があるんだろうと。そのときに、こちらのほうで、日本からきちんとした情報を、どれだけ苦労して、お金も人手もかけて除染を続けているのか。まだまだ至らぬところもあるでしょうけども、復興は進んでいるのか、空間線量をどうやってはかっているのか、食材というものはどうやって放射線をはかっているのか、老舗に出てくるようなものというのは、老舗の当然評判がかかっておりますので、150年の歴史をふいにしないために、どうやって、恐らく厳選して出しているのか、そういった部分というのを私どもが伝える用意をしておくということも必要なのではないかなと。

復興した姿を見せる、もちろんでございます。と同時に、そこに至るまでの過程というのを包み隠さず事実として世界に伝えるということもありではないのかなと感じた次第です。失礼いたしました。

○日枝委員長 自費で参加していただきまして、ありがとうございます。

どうもありがとうございました。大変参考になる御意見をいただきまして、ありがとうございます。

後ほど、それに対する御意見は頂戴するといたしまして、次に小・中学生からのポスター募集企画について、事務局からお願いいたします。

○小林部長 それでは、小・中学生ポスター募集企画の概要と表彰式について、御説明させていただきます。

38ページを御覧ください。

まず、本年度ですが、既にお話がありましたように、テーマとしましては「東京2020大会マスコットと〇〇」ということで、この「〇〇」のところに「大会マスコットと私」とか、「マスコットと私の町」とか、「私の学校」とか、子どもたちが自由に発想して、マスコットと自分の関係を絵に描いてくださいというテーマ設定にいたしました。

応募対象、募集方法等は、これまでと変わっておりません。

今回の応募状況は非常に高く、これも先ほどありましたように3万点を超える点数が集まりまして、参加いただいた学校の数も3倍近くに増えたという結果になりました。これも、マスコットに対する関心の高さということかと思えます。

続きまして、39ページですけれども、今回の選考の流れですけれども、まず、学校から代表作品を選んでいただきまして、応募いただき、それを組織委員会の職員によって、優秀作品32点まで絞り込みました。それを皆様に見ていただいて、今回、投票をいただいたということでございます。

小学校・中学校・特別支援学校小学部及び中学部それぞれから、金・銀・銅の各賞、そして優秀作品5点を選ぶということになります。

また、今回は、金・銀・銅に選ばれなかった作品の中から、マスコットの作者である谷口さんに選んでいただく谷口賞というものも特別に設定する予定でございます。

続きまして、40ページ、表彰式でございますけれども、3月29日（金）午後を予定しております。

場所は、これは昨年と同じパナソニックセンター東京、ちょうど大会が行われるベイゾーンの真ん中にある会場でございます。

子どもたちには、ここに来た後、どんなところで大会が行われるかというのを、ぜひ見て帰っていただきたいなと思っております。

参加予定者、これも昨年と違うところですが、昨年までは金賞受賞者の子どもたちのみを御招待していましたがけれども、今回より金・銀・銅、そして、谷口賞の受賞者、全員を御招待する予定でございます。

出席者としましては、森会長、日枝委員長、そして、津賀パナソニック社長、そして谷口様、そしてアスリート委員等のアスリートの方にも御出席賜る予定でございます。

そのほかでございますけれども、作品についてはパナソニックセンター東京で掲出いたしますし、また、パートナー企業の皆様からは、子どもたちにお渡しする景品に対していろいろ御協力をいただいております。また、ライセンスグッズ等の中からも、子どもたちにお渡しするグッズを選びますし、これはまた、メディア委員の中からも御意見をいただいたものでございますが、作品をポストカードにして子どもたちにもお渡ししていくということを予定しております。

めくっていただきまして、41ページですけれども、このポスターの活用につきましては、



組織委員会の中で活用していくということに加えて、自治体やパートナー企業のところで積極的に御活用いただくことを計画しております。

最後に、来年度のテーマですけれども、いよいよ大会本番になるということもありますので、「世界の選手を応援しよう！」というテーマで、いろいろな国の選手を応援するポスターを子どもたちに描いていただくことを計画しております。

ポスターに関しての御報告は以上でございます。

○日枝委員長 御説明をありがとうございました。

それでは、最後に、レガシー・レポーティング・フレームワークについて、事務局から説明をお願いいたします。

○伊藤CFO それでは、最後に43ページ、44ページをお開きいただきたいと思います。

レガシー・レポーティング・フレームワークということでございますが、IOCのほうは昨年2月に一つの新しい方針を打ち出しました。

従来から、オリンピックがその地域にどういうインパクトを与えたのか、影響を与えたのかということについて調査をすると、こういうことは決められていたわけですが、それをさらに一段精査するような形で、大会が開催都市に及ぼすメリットを把握する指標を決めて、しっかり取り組むように、把握していくようにということの方向性を打ち出したところでございます。

私どもは、先ほどの中で説明いたしましたけれども、レガシー・プランという形で、私どもが実施したことについてはしっかりおまとめをさせていただき、発信していきたいというふうに思ってございましたが、直接、私たちが何をやったかではなくて、その結果、このオリンピックの体験を通じ、都市に対してどういう変化を与えたのか、そのメリットは何なのかと、こういったものができる限り把握できるような指標というものをしっかり検討し、後にはかれるようなシステムをつくっていくようにということで御提示を受けたところでございます。

44ページの下スケジュールのところでございますけれども、どのようなものがこれにふさわしいのかということですが、新しい取組でございますので、今後、私どももまた、委員の皆様からいろいろお知恵をお借りしながら、IOCと少しキャッチボールをして決めてまいりたいと思っておりますが、項目をしっかりとめた上で、それらをどう調査、数字をとって分析をしていくのか。特に私どもは、大会後になりますので、仮に組織委員会が解散後であっても、東京都等とも連携しながら、どういった取組ができるのかということ

を、これから検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○日枝委員長 御報告、ありがとうございました。

今まで事務局からずっと、昨年の活動の振り返り、あるいは今日の現状について御説明がありましたが、刻々と来年のオリンピックが迫ってきているなという感じがいたします。

先ほど申し上げましたけれども、このメディア委員会も4年半、この活動をしてまいりましたけれども、事務局の皆さんにはここまでよくまとめていただいたなというのが私の実感でございます。

今、事務局から説明があった組織委員会の活動報告などを含めて、いろいろな最後の報告、これからつくるところでございますが、これらについても何か御意見がありましたら、ぜひ御発言をいただきたいと思っております。どうぞ御遠慮なく、お願いしたいと思います。

○夏野委員 口火を切るのが私の役割なので。

お配りいただいている「Road to Tokyo 2020」というのがあるんですけど、これは、これからやるべきことが網羅的に書いてあって、すごくいい資料だと思うんですが、これはここで配っているだけだとすごくもったいないと思うので、こういうのも「計画は変更の可能性あります」という注記を加えた上で、ぜひ、ホームページで公開してほしいと思うんですね。

これからどんなことがあるのかというのがわからないし、記者さんなんか一々組織委員会に聞かないとわからないんだと結構ハードルが高いので、ぜひそれをお願いしたいというのが、機運を盛り上げるために重要だと思いますので、お願いしたいというのが一つと、それから、先ほど日枝委員長からお話があった4年半の歴史。できれば、今まで、こういう委員会をいつ何月何日にやってとか、ここでマスコットの投票をやったとか、過去の歴史も、これからオリンピックが近づくにつれて、こういう準備をしてきたんだよという記事が、いろんなところに出ると思うんですけども、そのたびに記者さんが個別にインタビューしていたりしたら大変なことになるので、ぜひウェブに載せて、どこかの、メディア委員会とかを押すと一応参加していた人の名前ぐらい出ないと、自費で福島に行っている委員さんもいらっしゃるから、いろんな方の協力によって成り立っているものを、ぜひそういうところに残しておいてあげるということを、ぜひこれからやったらどうかと。

どのみちヒストリーは全部記録があるので、組織委員会がなくなると多分記録はどこかにいってしまって、それを調べるのは大変なことになると思うので、ずっとウェブを残し

ておくとか、記録に残すとかという、そういうことをぜひ検討いただきたいと思いました。

○日枝委員長 大変貴重な御意見をありがとうございました。事務局でも、ぜひこれは、まとめておいたほうが本当にいいと思います。

私もメディア委員長をやっていて、それは必要だなと。夏野さんがおっしゃっているとおりだと思いますので、事務局にぜひお願いしたいと思います。

それから、ホームページの公開、これもぜひしていただいたらいいんじゃないかと思えますので、よろしくお願いします。

ほかにどうぞ。

○佐野委員 福島のツアーは、前日にドタキャンしまして、ヘタレの佐野でございます。今、夏野さんがおっしゃったことは大変貴重なことでして、恐らくメディア的には、1年前くらいからカウントダウン記事が始まり、今日のオリンピック、パラリンピックの動きというふうなものを、いろんな形で載せていくだろうと思うんです。囲みみたいな形で。1964年の資料を見ても、やはりそんな形の記事が掲載されています。

今日は何が行われるんだろう。例えば、特に聖火になりますと、今日はどこでどういうふうなセレモニーをやったのかというのは、必ず各紙みんな載せています。ということで、今、夏野さんがおっしゃったことは大変貴重なご意見だろうという気がしています。

その聖火なんですけれども、全国を回ります。セレモニーを行います。

このセレモニーに関してなんですけれども、例えば組織委員会としての関与はどうなるのか。共通のセレモニーを何か行うのか、その場合、個別にそれぞれの自治体、県あるいは通っていく市町村になると思いますけれども、そこにどのぐらいの権限を渡すのか、あるいは、我々メディア的に言えば、地方紙にどのような形で関与させるのかとか、そういったことも、やはり大事なことじゃないかなという気はします。

64年大会のときは、例えば村を回って、聖火がある村で宿泊して村長さんの家の床の間に聖火が飾られたなどといった記事がありました。そういった事実は大変おもしろいので、過去の例だとかを知ってもらうために、地方紙と連動しながらイベントをやってみたりするというのもおもしろい試みになるんじゃないかなという気がしています。

○日枝委員長 事務局どうですか。大変いいアイデアだと思うんだけど、どうぞ。

○伊藤CF0 まず聖火について、今のお尋ね、御質問、また御意見を頂戴いたしました。

私どもも聖火については、この決めた日程の中で、例えばどのルートをと、具体的に県内を通るのかということについては、それぞれの地元とか都道府県ごとに委員会を設けてい

ただいて、御検討もいただきつつ、最終的には聖火リレーとして、この組織委員会が自ら行っている部分でもございますので、地元といろいろと協議、相談しながら決めていくわけですが、その中で、特に各地、各地で、その日のゴール地点で、着いたときにセレブレーションという一つの催しを実施していただくことになってございます。

このセレブレーションについても、むしろ一定の、ある程度の決め事のルールはあるわけですが、あくまで、それぞれの都道府県の中で創意工夫を凝らしていただきたいということで、県主体で考えていただきつつ、共通の部分ですとか、もしくは、それはやってはいけないよというような部分があれば、私どもと相談をしながら決めていく部分でございますが、何せ、各地で盛り上げていただくというのが基本でございますので、各都道府県、また市町村における創意工夫をできるだけいかにするように、今後とも取り組んでまいりたいと思っております。

○佐野委員 それはいつ解禁されるんですか。もうされているんでしょうか。

例えば、自治体との間で基本的な話はすでになされているのですか。組織委員会はこう考えているよと、このぐらいのセレモニーはやってくれよということと各自治体に任せる部分はどこまでなのかなどです。何月何日をもって、その話し合いをするのかとか、決まっているのでしょうか。

○伊藤CF0 この一覧表で御覧いただくと、幅が非常にあって大変恐縮なんですけど、上から三段目のところの聖火リレーということで、2019年中にトーチ・ルート、ランナーについて公表するというので、全部まとめたの部分と、順次の部分がございますけれども、それぞれ各都道府県で御検討を始めていただいているのは事実でございますので、そうしたものを私どものほうでこれから集約しながら、IOCとの調整が必要な部分も出てまいります。

ルートについては、夏ぐらいが一つの目安でまとめられればなというふうに思っております。

○日枝委員長 ありがとうございます。

○森会長

聖火リレーのコースについて、私は冒頭、知事会で申し上げたように、通り一遍の同じようなものばかりはやめなさいよと、各県にゆっくり回るんだからということをお願いした。

今さっき佐野さんが言われたように、村長さんの家で飾ったそうだという、そういう話もあるわけだから、福島県、岩手県とか、宮城県は、みんなが注目していますけど、佐賀

県に、あるいは、資料を今見ていると濃度の地図が出ていましたね。各県の濃度が、緑と黄色と赤で。これを見ていると、メディアの報道の仕方とか、そういうことがつまびらかに、あまり知らされていない県が薄い。山形県のように、遠藤さんが呼んだら非常に濃いですね。

ですから、そういうことがあるので、皆さんが今度それを御覧になって、ここはこんなおもしろいがあるんじゃないの、こういうことを関連してやったらどうですかというふうに、アイデアを私は出していただいたらどうかなと思うんで、忘れないうちに、今日ここで申し上げておきたいと思います。

それから、地方紙を使ってというお話が今、委員長からも出ましたが、はっきり申し上げてメディアで広告をやりますと、全部、全国紙だけなんです。これだけ前面に、これだけのページを使って、こういう広告をしましたと言うと、順不同ですが、朝、毎、読、産、日経、こう決まっちゃうんですね。

そうすると、今はどうなっているか知りませんが、私どもの石川県に行きますと、北國新聞というのが8割から9割が取っています。朝日新聞というのも、1万いっているかどうかだと思います。佐野さんところは言いにくいけど、5,000あるかないか。

そうすると、みんな併読紙なんです、地方紙は。それも、福井新聞だとか北日本新聞だと、山形も新聞があります。そういうところには、全然このオリンピックの広告というのはでてこないわけです。

これが今まで、議論を考えろということを広報にも言うんだけど、なかなかいい案が出てこない。どうしても共同通信、時事通信は、広告まではカバーされてない。記事によってニュースの配信はできるけど、広告は違う。こうなると、結局ローカルの新聞は、最後までオリンピックの、非常に訴えるようなPRがほとんど出ていない。

本当の建設的なオリンピック委員会で何をやろうと、どうしているかというのは、ほぼ伝わってなくて、関係者に話すと、そういうのをやるんですかと言う。

例えば、マスコットをここで選ぶんですよというのを、これはメディアのおかげで助かったんです。みんな知らないんです、県によっては。それが、マスコミに随分扱われるようになったら、ざっと500万人の子どもたちが、あれに参加するようになったんですね。そうでなかったら、本当に一部の子どもたちだけのものだったのが、せっかくこれを発案してくれた夏野さんに大変申し訳ないことになったと思う。あれはもう、すばらしい成果を上げたのはメディアのおかげ。しかも、それも地方紙がよく取り上げてくれたということ

だと思えます。

ですから、これをこれから実行段階にいろいろとなりますので、ちょうどメディアの皆さんに、どうやってこれをうまく意見を伝えられていけるか、これは組織委員会も考えなきゃいけないことなんですけど、ぜひ、皆さんに御一考いただけたらというふうに思います。

○日枝委員長 一委員として、大変貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。

ぜひ、事務局でも検討していただいて、いい、盛り上がるような場所とか、いろいろな地域の名所とか、それが映るような感じ、盛り上がるような雰囲気、また急いで組み立てていただいて、地方紙にも載るような努力をいかしていただけたらいいと思います。よろしくをお願いします。

ほかに何か御意見ございますか。

はい、どうぞ。

○宮嶋委員 テレビ朝日の宮嶋でございます。

事務局に教えていただきたいのですが、今回、大会史上初めて、UNとSDGsの推進に向けた基本合意書を締結ということですが、途中から入ったプログラムだと思うんですけど、これに関して、どのようなことを考えていらっしゃるのか。去年の11月なので、まだまだこれからということなのかもしれませんが、今の段階でもし何かありましたら教えていただけたらと思います。

○伊藤CFO ありがとうございます。

資料18ページのところで、国連とのSDGsの推進協力に関する基本合意書の資料でございますけれども、この国連との連携協定にかかわらず、私どもは持続可能な大会運営ということさまざまな取組をこれまで進めてまいりました。

先ほど申しましたようなメダルプロジェクトもございますし、選手村につくるビレッジプラザ、これは全国の木材を自治体のほうから御提供いただき、大会後は破棄してしまうのではなくて、それを伐採、御提供いただいた地域に戻しまして、その地域の小学校ですとか、公共のところで再利用していただくという形で、一つの資源を十分循環するような社会をつくっていくということで進めている取組もございます。

また、さまざまな物品の調達に関しては、調達コードをしっかりとつけて、このSDGsにかなうような形での調達に配慮するというところにも取り組んでおります。

こうした取組は、国連との連携前から私どもは取り組んできているわけですが、改めて国連との連携、提携、協定を結ばせていただいたのは、ともに相互発信の中で、私

どもが国連と連携をし、国連の場で、東京大会をこういう形でSDGsをめざした取組を進めているよと、こういうような発信をさせていただいたり、また、私どものオリンピック・パラリンピックの東京大会の発信の中で、国連がSDGsを目指して、こういうことをこれからの社会はしていかなければいけないんだということで発表していただくような場を提供したりという形で、相互のイベントを連携しながら情報発信していこうではないかと、このようなことを基本に合意書を結んだところでございまして、今後、どういうイベントで、どういう連携が取れるかということについては、また国連と随時コンタクトを取りながら、具体例を挙げて、また発信をしていきたいというふうに思っております。

○日枝委員長 ほかにどうぞ。

はい、結城さん。

○結城委員 ありがとうございます。

聖火の話に戻らせていただいて、一つは、聖火リレーというのは、人々が当然、関心は非常に高いものをもっていらして、そこを見に行くのか、いろんな形でイベントをサポートする側に回るのか、そして聖火ランナーになるのかという部分で、非常に人々の参画を促すという最高のツールになり得るのだろうと感じています。

特に参画の部分で、いろんな例えばランナーの選考方法ありますけれども、その中で例えば、自分自身が一体どういうことを未来で見たいんだと思っているかとか、自分がどういふふうに社会にこれまで関わってきたかとか、そういうのを振り返り、自分の誇りとして、そして周りの人たちも巻き込んで、それをいわゆる、いろいろなからくりもつくり得るのだということをお頭に置いておきたいと感じています。

例えば、大変恐縮ですが、ソチのときの聖火リレーで、田舎の隣町で出会った高校生の男の子が、ロシア人なのに、なぜか英語をおしゃべりになって、私のところにわざわざやってきて、全く見も知らぬ記者も全く御存じない。「いやいや聞いてください」と言うから「どうしたの」と言ったら、「僕、学校の作文で、自分がスポーツをやっている、どういふふうにこれから社会を見たいんだという部分を作文に書いたら通っちゃったんです。僕、それで聖火リレーに選ばれたんです。ランナーに選ばれたら学校中がお祝いしてくれて、沿道には今日、先生から誰から、みんな来ていたんです。もう本当に有頂天で」みたいな話を彼がしてくれました。

そういった、実は聖火ランナーは、ほかの場所でもいろんな方にあっています。その方にとって、聖火を走るということが、自分自身の、今、これまで、そして、これからとい

うもの、そして自分と社会のつながり、そういったものをもう一回感じ取る人生で一番の機会になり得る。それをいかしてあげられる部分があるといいなと思うんです。

選考方法だけではない、いろんなお知恵があると思います。地方紙というお話がありました。地方紙だって、昔だったら、例えば、じゃあ、自分で、何で聖火ランナーになりたいかという作文を募集して、その選考をそれぞれの地方紙がおやりになってもいいわけですよ。10人なら10人の枠をあげて、そこで1等になったらどうぞみたいな感じにしていけば、みんなの関心も、地方紙の関心も集まるかもしれないと思いますし、いろんな形で、私たちがスポーツなどを通じて、自分と社会はどういうのかという部分の足しに、人々の参画の足しになるような、ぜひ工夫をと思います。

○日枝委員長 ありがとうございます。

ほかに御意見は。どうぞ御遠慮なく。

はい、どうぞ。

○佐野委員 聖火リレーから、また話を変えます。認証の話なんですけれども、SDGsの取組は大変結構なことなんですけれども、今、懸念しているのは、選手村の食材調達の件です。日本は今、農産物も海産物も全て認証制度が大変遅れている。どの辺りでIOCと合意するのかというところが一つの大きな問題だろうかと思うんですけれども、その辺りの状況というのはどうなっていますか。あるいは、何か特別に、例えば政府に働きかけて、認証制度への参画意識を高めよとか、あと1年半なので大変だと思うんですけれども、そういったような何か考えというのはございますか。

○手島局長 御質問ありがとうございます。

調達につきましては、食品に関しましても農水産物を含めまして、それぞれの調達コードを、過去大会でも初めて、東京大会からコードをつくって、今、実施しているところでございます。

それで、ローカルなルールを設けておりまして、それを達成することについて、今力を注いでいるところです。

実は、繰り返しになりますけど、制度が今まで全然なかったところで、調達コードというルールを入れましたので、あまりにも高いハードルを設けてしまいますと参入できなくなってくるということも加味しまして、それぞれワーキンググループで、学識経験者の先生方にも入っていただいて、どういう水準がいいのかということは何回も議論してまいりました。その中で、グローバルな、スタンダードなルールと、国内におけるローカルル



ールと、そういうところと整合を取りながら、今、農水産物につきましても、ルール化をして、それをチョイスするような形で進めているところでございます。

○佐野委員 2012年のロンドン大会、それから、あと16年のリオでもやりましたけれども、IOCの基準というのがございますよね。その辺りのところは、どうなんでしょう。

○手島局長 基本的には、IOCの基準と整合を取りながらルールをつくっているところでございますが、一部は東京大会独自の決めというのもございまして、繰り返しになりますが、その辺の整合を取りながら、目指すところは一緒でございますので、今、その基準に合うような形で、関係者の方々と調整しているところでございます。

○日枝委員長 ほかに何かございませんでしょうか。

特にございませんでしょうか、今まで、この分厚い資料で、大体この現状を皆さんに御理解いただいて、着々と進んでいると思います。

先ほど、冒頭に申し上げましたけれど、4年半でここまで進んだのかなというのが実感でございまして、今年は、これからあと1年半で、オリンピックになるわけですが、いろいろあり、新元号、それからワールドカップのラグビー、それから、いろいろ次から次に、国際会議G20もあります。何か祝賀ムードの中に、どんどん、どんどん入って、日本も盛り上がっているところにオリンピックを迎えるという環境になると思いますが、なお一層、そのオリンピックが成功するように、事務局の皆様、またここにおられるメディア委員の皆様、遠慮ない、忌憚ない御意見をお申し出いただいて、事務局はそれに反応していただくようお願いしたいと思います。

特に、今の意見の中で数々ございましたけれども、皆様、メディア委員会、あるいは組織委員会の行動の足跡を、夏野さんの御発言でございまして、全部残しておいたらいんじゃないかと。私は全くそう思いますので、ぜひ、それらの意見について御検討いただきたいのと同時に、それからホームページの公開、あるいは今、何回も出ていました聖火リレーの継続点も問題ですが、これが世界にまたつながるということで、観光立国日本ということとも結びつくこともありますし、オールジャパン、日本全体を示すということもオリンピックの一つの大きなテーマでございまして、その聖火リレーについては、早急に御検討いただきたいというふうに思います。

それから、先ほどもお話が出ましたけれども、地方紙に動員するために、こちら側から、事務局から、やり方というか、コンテンツというか、どんどん紹介していくことも大事なかなと思いますので、どうぞ御検討を賜りたいと思います。

そのような意見もございました。大変実り多い会議でありました。

事務局におかれましては、本日の意見を検討の材料として役立てていただければと思います。

以上で予定いたしました内容は終わりましたが、ほかに御意見はございませんでしょうか。ありがとうございました。

それでは、最後に、事務局から事務連絡などについて、お願いいたします。

○小林部長 本日は、たくさんの御意見をいただきありがとうございました。

皆様からの御意見を踏まえながら、多くの方々に東京大会に参加していただける取組、今日、特に聖火リレーとかに関して、いろいろな御指摘をいただきましたけれども、そういった取組や、大会後に継承するレガシーについての取組を引き続き進めてまいりたいと思います。

また、改めまして、ポスターの選考への御協力をいただきありがとうございました。まだ投票用紙を提出いただいていない委員の方につきましては、お帰りがけに係の者にお渡しいただければというふうに思います。

本日、出していただきました投票の結果につきましては、後日、表彰式の詳細と合わせまして、委員の皆様にご連絡させていただきたいと思っております。

なお、集計の結果、得票数が同点になるようなケースがあるかもしれません。そのような場合の表彰作品の決定というものに関しては、日枝委員長に一任させていただきたいと考えておりますけれども、委員の皆様、御同意をいただけますでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○小林部長 ありがとうございます。

それでは、同点の得票があった場合の判断につきましては、委員長に一任させていただくこととさせていただきます。ありがとうございます。

続きまして、皆様の机の上に、2月7日に開催いたしました被災地復興支援連絡協議会の資料を配付させていただきました。

組織委員会のみならず、国やJOCと各ステイクホルダーにおける復興支援事業につきましてまとめている資料でございます。御参考までに御覧いただければと思います。

最後に、事務連絡が2点ございます。

一つ目は、お配りしております資料と議事録につきましては、後日、組織委員会のホー

ムページで公開させていただきますので、御了承いただきますようお願い申し上げます。

それから、二つ目ですが、次回の委員会開催につきましては来年度を予定しております。日程等につきましては、別途、御連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、今後とも、委員会の運営に御協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

○日枝委員長 ありがとうございました。

これで第9回メディア委員会を終了いたしますが、今、次回でございましたが、次回は来年度ということは、4月から。オリンピックまで、あと何回かでございますので、ぜひ皆さん、御協力をお願いしたいと思います。

ありがとうございました。